あの日から、未来へ

人が、街が失われた2011年３月11日の“あの日”。今、ゆっくりと未来へ歩み始めた。被災地の復興に挑む医療者たちの心を届ける

南相馬市立総合病院
院長
金澤幸夫氏

また医師１年生を教えている その１

今年10月で61歳になった。自分の医師としての人生を時々振り返るようになっている。これで良かったのか、もう１度やり直せたら違う道を選んだか自問自答している。2013年より初期研修医が当院に勤務するようになり、私は１年次２人、２年次１人に消化器内科一般と上部消化管内視鏡を教えている。私はもともと小児外科、一般外科が専門なのだが。

高校１年生のときのことだが、祖母が胆石を持っており時々発作を起こしていた。南相馬市内、小野田内科の小野田重敏先生が往診してくれ注射をすると、あんなに苦しんでいた祖母が嘘のように良くなっていくのをみて、医者っていい仕事だと思ったのが医師になるきっかけだった。

1973年４月福島県立医科大学入学、中学、高校とバレーボールをしていたが、１年浪人しており外で走りまわりたい衝動でサッカー部に入った。１年生は決まった上級性とパスなどの練習を行う決まりがあった。５年生の部員に高野先生、安藤先生、四本先生、村田先生がおり、私は高野先生（Haupt）とコンビだった。高野先生は私の下宿と道路を挟んですぐ近くのアパートに住んでいた。高野先生のアパートは皆のたまり場で、麻雀、宴会の場だった。ある日のこと、明日試験なので勉強をしていると、庭先から安藤先生が「金ちゃん（私の愛称）、麻雀のメンツが足りないので来ない」と呼びかけられた。えー、明日試験なのに。先輩の指示には絶対服従なので麻雀に参加。74年ドイツ開催のワールドカップの決勝戦を皆でビールを飲みながらテレビ観戦。ヨハン・クライフ率いるオランダと開催国ドイツが決勝に進んだ。ドイツにはスイーパーのベッケンバウアー、ストライカーのゲルトミュラーがおりドイツが２対１で勝った。私はベッケンバウアーに憧れており、サイドバックからスイーパーになった。今の大学は光が丘にあり周囲には何もなく、勉強するのには良い環境になっている。移転前は、県庁に接して大学があり、徒歩で飲みに行けた。サッカーの練習後、高野先生が飲みに連れて行ってくれた。酒屋は、ほとんどが岩滝酒蔵で日本酒１杯１合が80円、10杯飲んで800円、50円以下のつまみ４品で計1000円、十分酔えた。

私は医学部に入学したときから漠然と外科医になりたいと考えていた。高野先生、安藤先生が心臓血管外科医になるため第一外科に入局した。私も先輩をみていて心臓血管外科医になるのが当然のように思えた。79年大学を卒業し第一外科に入局、一般外科から研修が始まった。私を含めて７人の同期がいたが自分が一番不出来だった。ある日、摘出標本（線維腫）のスケッチをしていたら、その後、教授、学長になる元木良一准教授から金澤、お前ばっかり怒るようで悪いがこれはこういう風に描くと良いよと自らサラサラと描いて見せてくれた。１年目の10月から宮城県角田市の仙南病院に出た。全身麻酔を覚え、虫垂炎、ヘルニアの手術を行った。２年か３年目か記憶が曖昧だが、いよいよ念願の心臓血管外科（心外）の研修に入った。心臓カテーテル検査は実際に沢山させていただいたが、開心術に入れてもらったのは１度だけで、血液のサクションをしていたら溶血すると言われ下ろされた。ある日、何が原因だったか思いだせないが心外の先輩と口論になり、「君は心外にはいらない」と言われ、心外の夢は消えた。　（続く）

医局３年目　他大学医局対抗試合ための練習風景。白いユニホームが筆者